

2018年度



新潟市革新的農業実践特区

スマート農業 企業間連携実証プロジェクト

ウォーターセル株式会社 water-cell, inc.

2018年 11月 13日

今までの新潟市アグリプロジェクト

農産物高付加
価値化プロジェクト
(平成27年1月～)



地域活性化包括
連携プロジェクト
(平成27年2月～)



革新的稲作営農管理システム 実証プロジェクト (平成27年5月～)



ドローンによる水稻薬剤散布
実証プロジェクト (平成29年8月～)



ICT農機実証 プロジェクト (平成29年5月～)



長距離無線通信を活用
した圃場センシング
ソリューション



ドローン実証プロジェクト (平成28年9月～)

科学に基づく、栽培指導
の新しいカタチ
(平成27年7月～)



高付加価値・
低コストな植物工場
(平成27年3月～)



各社それぞれが実証に取り組んだが、
得られた農業情報の一元管理及び可視化が
課題となっている

各企業が有する革新的技術を組み合わせ、
クラウドで一元管理することによる

「結果の見える化」 を実現する

	井関農機株式会社 株式会社トセキ信越
 <p>Remote Sensing as a Service</p>	株式会社スカイマティクス
<p>Japan Asia Group</p>  国際航業	国際航業株式会社
 water-cell	ウォーターセル株式会社

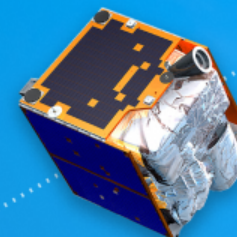
ドローン

葉色解析サービス
「いろは」



人工衛星

空から診る精密農業
クラウド型営農支援サービス
「天晴れ」



営農支援システム



農業は、記憶から記憶へ
アグリノート

water-cell



ICT農機

ISEKI
アグリサポート

vegetalia

センサー

・ Field Server



最先端の技術を組み合わせたスマート農業の実現

Smart Agriculture

実証フィールド



実証区

面積
35.3 a

面積
35.3 a

品種：新之助



慣行区

面積
11.05 a



有限会社 米八

実証期間

平成30年5月15日（キックオフ）～平成32年3月末

田植え



可変施肥による
自動施肥

圃場1枚の地力が一定となり肥料費の削減、倒伏低減、及び品質の向上が見込まれる。

生育調査



圃場ごとの
生育を確認

人工衛星で広域/ドローンでピンポイントに撮影したデータを蓄積し、「面」での生育状態を可視化する。

追肥



ブームタブラによる
高精度追肥

車速に合わせて散布量を制御し均一散布
※圃場1枚の地力の均一化を維持

収穫



適期診断、収量コンバインでの収穫

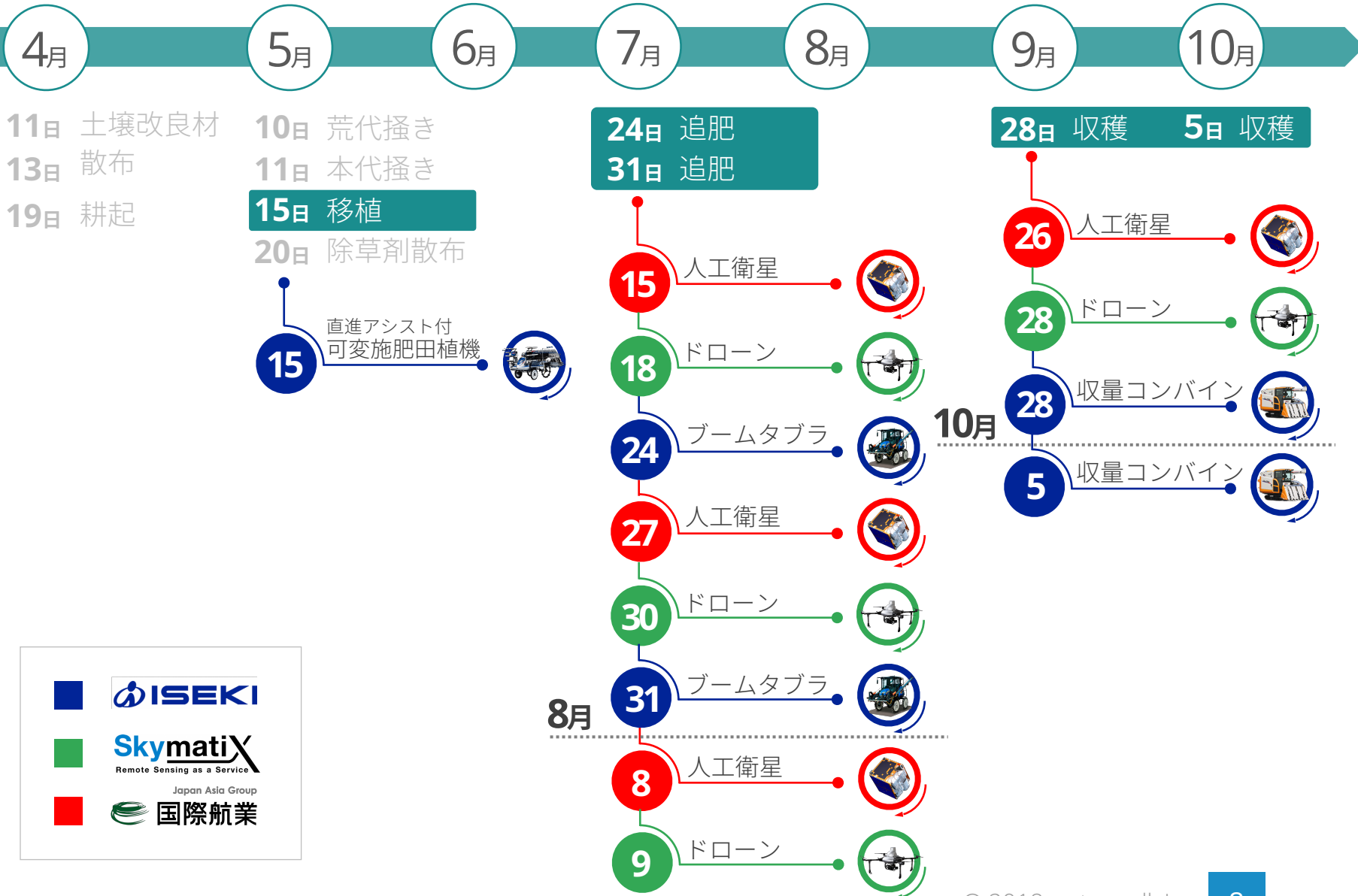
センシング情報を活用し適期を診断。収量コンバインで収穫し、収量及び倒伏状態を記録する。

1年目

2年目

農業データを収集・蓄積

データ活用による農業経営支援







 Remote Sensing as a Service

 Japan Asia Group

